

2014 年 2 月の大雪と積雪後の降雨を踏まえた 建築物の対雪設計に関するシンポジウム

2014 年 2 月に関東地方を襲った大雪により、多数の大規模な鉄骨造構造物が倒壊、屋根が崩落する被害を受けた。これらの被害は、少雪地域の対雪設計を改めて考える契機になった。具体的には、積雪後の降雨の影響を含んだ雪荷重評価および鉄骨造大スパン建築物に対する雪荷重とロバスト性（頑健性）の関係などである。また、依然として、高層建築物への着雪や落雪は安全対策上の課題となっている。

本シンポジウムでは、対雪設計とその課題について整理し、首都圏の大雪被害と構造物の安全性に関するシミュレーション事例を紹介する。さらに、積雪後の降雨に配慮した屋根雪荷重の設定に関して、2015 年から実施された大規模実験などにより得られた知見や国の動向を紹介すると共に、降水量をベースにした荷重評価について議論する。また、高層建築物の着雪対策について実験や CFD による着雪シミュレーション等に基づく対策の考え方を議論する。

主 催：日本建築学会 構造委員会 荷重運営委員会 雪荷重小委員会

後 援（予定）：日本建築構造技術者協会，日本膜構造協会，日本雪工学会

日 時：2017 年 11 月 22 日（水）13：00～17：00

場 所：建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）

プログラム

1. 主旨説明……………高橋 徹（千葉大学）

2. 講演

2014 年首都圏の大雪被害および構造設計の課題……………中島 肇（日本大学）

積雪後の降雨に配慮した雪荷重の考え方

—降雨の影響を考慮した雪荷重に関する基準整備について…喜々津仁密（国土技術政策総合研究所）

—降水量をベースにした雪荷重評価について……………千葉隆弘（北海道科学大学）

建築物外壁からの落雪対策の留意点について……………大塚清敏（大林組）

3. ディスカッション

参加費（資料代含む）：会員 4,000 円 後援団体会員 5,000 円 会員外 6,000 円 学生 2,000 円

定 員：200 名

申込方法：日本建築学会 HP「催し物・公募」よりお申込ください。

<http://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=602495>

問 合 せ：日本建築学会 事務局 事業グループ 中村

e-mail：nakamura@aij.or.jp TEL：03-3456-2057 FAX：03-3456-2058